

テーマ：『 自然や生命を大切にする理科・環境教育の実践』

高根沢町立 西小学校

Tel. 028-675-7541

担当者： 金井 司



■実践内容：

本校は、台地の上に立地し周囲を住宅地に囲まれた環境にあり、児童が自然生物、特に水生生物と関わる機会が少なく、理科・環境教育を行う上での大きな課題となっていた。そこで昨年度、同助成金を利用し、学校内にビオトープづくりを行い、水生生物の住む環境を整え、児童たちが多くの生物を観察することができるようになった。

本年度は、さらにビオトープ内の池に水質管理用のフィルター部分を設置し水中の環境の安定化を図るとともに、本校のPTA組織である「理科ボランティア」と協力し、池周辺の環境整備も行い、鳥や昆虫等の生息環境を整えた。

また、理科・生活科の授業では、本研究のテーマと連動した「自然の美しさや生命の大切さを感じ、科学的な見方考え方を育てる教育の実践」を学校課題として設定し、ビオトープを活用し、昆虫や水生生物と直接ふれ合いながら自然体験学習を行った。

■実践成果：

ビオトープ周辺の生態系も安定し、多くの動植物が観察できるようになった。特に水生動物や水生昆虫が数多く見られ、これを利用して、生活科「しぜんともだち」では、ビオトープ内で見られる動物とふれ合い、生命への関心を高めることができた。理科においては、3学年では「こん虫をさがそう」で、4学年では「四季のしぜん」で、5学年では「水中の微生物」で、6学年では「生物とかんきょう」と、全ての学年でビオトープを活用した授業を行い、テーマにせまることができた。

特に、5学年「水中の微生物」と6学年「生物とかんきょう」の単元においては、水生動物の生態を身近に観察することができるようになったことで、児童は体験を通して理解を深めることができるようになったとともに、自然を大切にしようとする姿勢が育ってきている。

■実践ポイント：

自然や生命を大切にする意識を育てるためには、直接自然に触れる、見るといった五感を使った原体験が重要である。そのためには、十分な自然環境が必要であり、ビオトープをつくり自然の教育環境を整備することは大変大きな意義をもつと考える。